

よしの道徳だより

令和 6年11月20日 第 2号 発行「『ことば』の心」部

我が国の教育は、教育基本法第1条に示されているとおり「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われ」るものである。人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道徳性であり、その道徳性を育てることが学校教育における道徳教育の使命である。

【小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 P1より】

特別の教科「道徳」の学習指導要領では、その冒頭に左記のような文言が書いてあります。とても仰々しく感じるかもしれませんが、原文のまま掲載しました。簡単に表現すると、「学校では、人格の完成と育成の基盤である道徳性を育てます」ということです。

その道徳教育では、子どもたちが悩んで揺れながら学びます。教科書に載っている題材文等を読み、異なる価値観の間で悩み揺れます。人として倫理的に望ましい姿やあるべき姿を考えるのです。

50年前の道徳授業 - 年間の半分はテレビ番組を見ていました

50年前の小学校の道徳の時間は、今とはずいぶんと異なっていました。例えば、あるクラスでは、概ね2週間に1度はNHK教育テレビの番組を見ていました。低学年時が擬人化された動物による人形劇、中高学年時は該当学年の子どもたちが主人公の実写ドラマでした。



視聴後に短時間ながら内容について先生が説明されることもありました。しかし、番組が終わるとB5判半分の広さの紙に内容の感想を書いて終わりという授業が多かったです。内面で揺れるということではなく、表面的なことばかり書いていた子どもたちも少なからずいました。

現代の道徳授業 - 子どもたちが悩んで揺れて話し合う授業です



【過年度の「親子道徳の日」の授業の一場面】

現代の道徳の授業でテレビ番組を視聴することはほぼありません。子どもたちは教科書を読み、人として倫理的に望ましい姿やあるべき姿を考えます。そして、友達との話し合いを通して、そのような自分になっていくための実践力を育みます。

内容について自分事としてとらえるようにし、友達とともに、「生き方」を学ぶのです。

- 【1年】「だれに対しても」【C-(11)自分の好き嫌いとらわれないで接すること】
- 【2年】「あいさつやひとことがあると」【B-(8)礼儀】
- 【3年】「正しいと判断したことは自信をもって行うこと」【A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任】
- 【4年】「だれに対しても」【C-(12)公正、公平 社会主義】
- 【5年】「謙虚な心で相手の立場や意見を尊重すること」【B-(11)相互理解、寛容】
- 【6年】「前向きに生きる心」【D-(22)よりよく生きる喜び】
- 【さくら1】「やさしくすると」【B-(7)親切、思いやり】
- 【さくら2】「正しいと判断したことは自信をもって行うこと」【A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任】

【「親子道徳の日」授業 各学年の「主題名」と【内容項目】】

お待ちしております「親子道徳の日」

12月2日は授業参観日です。この日は「芳野小親子道徳の日」として、全学年で道徳の授業を実施します。各学年の題名は左記のとおりです。

授業では教科書の題材文を読んで登場人物の心情に迫ります。子どもたちは苦悩を自分ごととしてとらえて考えて話し合います。帰宅後にその内容について親子の話題に挙げ、倫理的に望ましい姿を共有していただくとありがたいです。